

まちづくりの進め方

目指す姿の実現に向けて、「点の磨き上げ・線の創出・面の展開」の考え方に基づき、まちづくりを進めていきます。

① 「点」

の磨き上げ



- ・まちと海の近さや港の風景・夜景、観光スポット、商業・エンタメ施設など、多彩で横浜らしい魅力資源のポテンシャルを最大限に発揮できるようアップグレードします。
- ・新たな魅力・にぎわい施設を整備するなど、横浜ならではの魅力を創出します。



<左下>photo : 大野隆介

② 「線」

の創出



- ・磨き上げた魅力資源を結び付けるため、連続した歩行者空間の創出や移動そのものが楽しめる仕掛けづくりにより、水際線エリア全体の魅力を向上させます。



③ 「面」

の展開



- ・公共空間の積極的な活用などにより、水際線のにぎわいと主要駅周辺の拠点整備等によるにぎわいを連動させ、水際線からまちへ、まちから水際線への更なる人の流れを生み出し、都心臨海部全体を活性化します。



まちづくりによる成果指標

来街者への聞き取り調査や人流データ分析などにより、水際線のまちづくりによる成果を把握していきます。

成果指標の達成により、来街者数の増加や滞在時間の延長を図り、都心臨海部全体のにぎわいの創出や消費の拡大にもつなげていきます。

目指す姿



「世界に誇れる水際線」

水際線の来街者数

国内外から多くの来街者を呼び込み、横浜のファン・リピーターにならうことで都心臨海部の活性化を図ります。

現状値：975万人／年

目標値：**1,100万人／年（2029年度）**

計測方法：人流分析データサービスを使用

・水際線エリアに1時間以上滞在した人数
※居住・勤務者を除く

水際線における2エリア以上の立ち寄り率

2か所以上のエリアを楽しんでもらい、回遊促進・滞在時間の延長を図ります。

現状値：51%

目標値：**80%以上（2029年度）**

計測方法：以下6か所の立ち寄りを聞き取り調査
臨港パーク、ハンマーヘッド周辺、赤レンガパーク、象の鼻パーク、大さん橋、山下公園

水際線のまちづくり